



未来の
ために、
いま選ぼう。

沖縄県地球温暖化防止活動推進員

事例集



目次

1	沖縄県地球温暖化防止活動推進員について	p1
2	沖縄県地球温暖化防止活動推進センターについて	p2
3	沖縄県地球温暖化防止活動推進員の活動事例	p3
	(1) 出前講座の開催	
	推進員 吉田稔 氏 サンゴの保全	p3
	推進員 大浅田均 氏 那覇市内の小学校で環境出前講座	p4
	(2) 研修会等講師としての活動	
	推進員 玉栄章宏 氏 電力自由化によるエネルギーの地産地消	p5
	(3) 地域での活動	
	推進員 諸見みどり 氏 第6回七夕企画 ～であい橋で会いましょう～環境を考えるイベント	p6
	推進員 当真嗣也 氏 地球温暖化防止パネル展と「エコマークを知ろう！」の開催	p7
	(4) 環境教育活動	
	推進員 春川淳 氏 海岸清掃と環境教育	p8
	推進員 春川京子 氏	
	(5) 省エネの推進	
	推進員 大城加代子 氏 家庭の省エネ診断	p9
	(6) リサイクル活動	
	推進員 金城順子 氏 ダンボールコンポストによる生ごみの堆肥化	p10
	(7) その他の活動	p11
4	過去の活動事例 元推進員 谷田貝哲 氏 バスの定時性調査	p12
5	沖縄県地球温暖化防止活動推進センターの顔	p13

はじめに

沖縄県では、沖縄県地球温暖化防止活動推進員が、環境保全活動に取り組み、「持続可能な社会」を目指し、それぞれの知識や特技を活かして、地域や職場、所属する団体等で、身近にできる温暖化防止活動を広めています。

この冊子では、推進員の活動事例をいくつかご紹介しております。推進員におきましては、活動事例を参考に温暖化防止活動を活性化して下さるよう期待します。また、一人でも多くの方々に、環境保全活動の意義を理解していただき、推進員とともに「持続可能な社会」づくりに参加することを願っております。

沖縄県 環境部 環境再生課

1 沖縄県地球温暖化防止活動推進員について

沖縄県地球温暖化防止活動推進員（以下「推進員」という。）ってなに？

推進員は、地球温暖化対策の推進に関する法律（第37条）の規定により、都道府県内で地球温暖化対策の推進を図るため、都道府県知事が委嘱する方々です。

沖縄県（以下「県」という。）では、平成17年2月16日から、県民の地球温暖化防止の取組を促進する活動に識見、熱意、行動力を持った方を、「沖縄県地球温暖化防止活動推進員」として知事が委嘱しています。

推進員は何をしているの？

地球温暖化防止のために、地域や所属団体、職場、あるいは家庭などのさまざまな場面で、知識や経験、特技を活かして活動しています。

また、県や市町村等からの協力依頼に基づき、ボランティアとして普及啓発活動を行っています。

委嘱要件：地球温暖化対策に関心を持ち、地球温暖化の現状及び地球温暖化対策に関する知識の普及並びに地球温暖化対策の推進を図るための活動の推進に熱意と識見を有する県内在住者

選任方法：県又は沖縄県地球温暖化防止活動推進センター（以下「センター」という。）が主催する地球温暖化対策に関する研修を修了した者、もしくは、推進員として適任であると知事が特に認めた者の中から知事が委嘱する。

委嘱期間：3年以内で再任を妨げない。

活動報告：年間の活動状況については定められた様式で県に報告する。

推進員はどのぐらいいるの？

平成30年度「第15期 沖縄県地球温暖化防止活動推進員」は、沖縄本島、石垣島、宮古島に在住し、総勢57名となります。

2 沖縄県地球温暖化防止活動推進センターについて

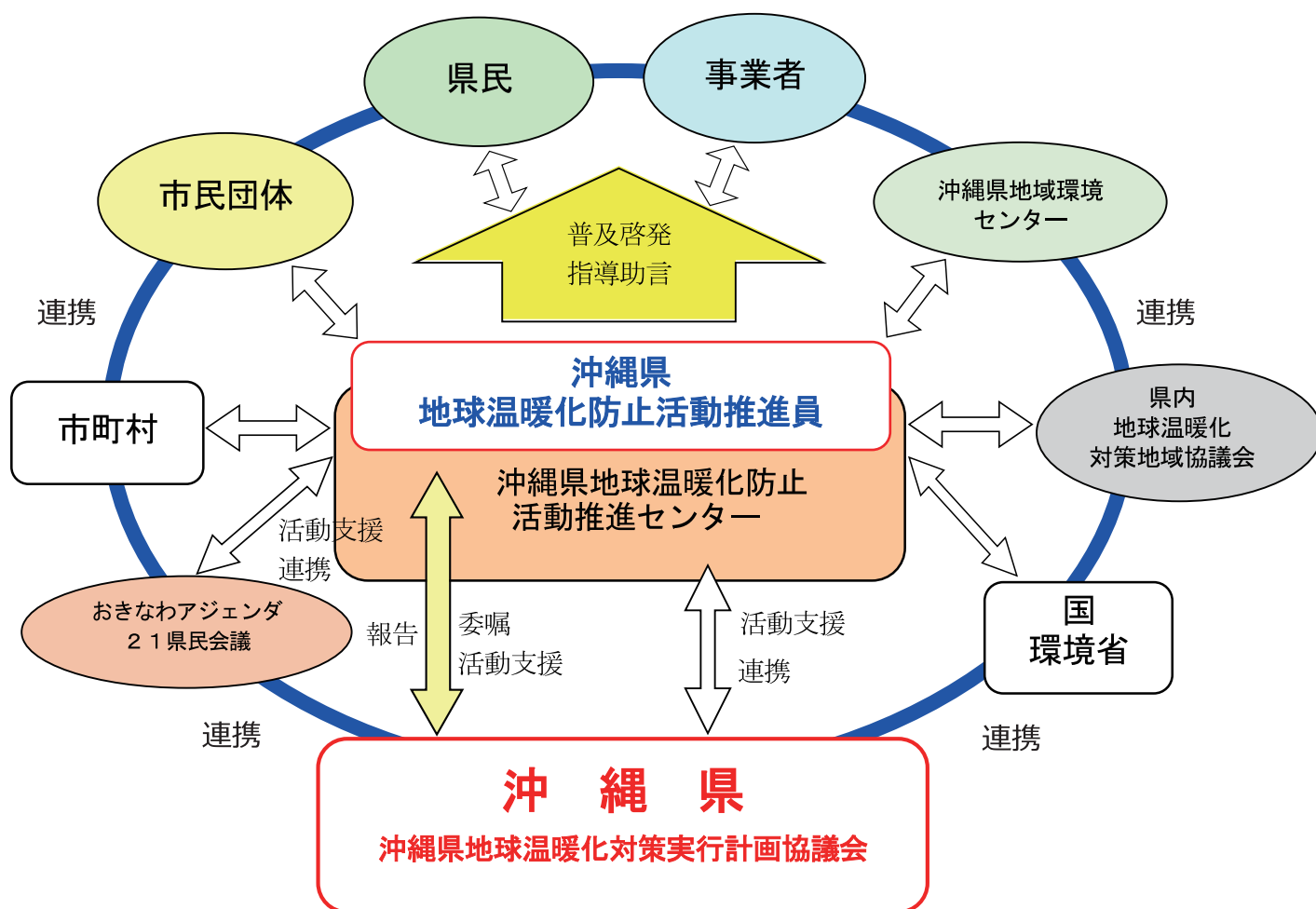
センターってなに？

地球温暖化対策の推進に関する法律（第38条）の規定では、都道府県内で地球温暖化の防止に関わる活動を行う拠点として、知事が指定できることとなっています。県では、平成15年に（一財）沖縄県公衆衛生協会が指定を受け、地域における地球温暖化防止活動を行っています。

主な活動に、地球温暖化対策等についての広報・啓発活動をはじめ、推進員や民間団体の活動支援や研修、相談業務のほか、温室効果ガス排出に関する実態調査、自治体への施策協力などがあります。

推進員とセンターの関係は？

センターは、推進員の活動を支援する役割も担っています。推進員研修の開催や協働による出前講座、教材の貸出、活動に関わる相談など様々な支援を行っています。



※推進体制の概要を示すものであり、ここに記載している以外にも協力・連携体制等があります。

地球温暖化防止活動の推進体制の概要

3 沖縄県地球温暖化防止活動推進員の活動事例

(1) 出前講座の開催

推進員 吉田稔 氏

サンゴの保全

目 的

サンゴは、温室効果ガスを吸収する「海の森」のような存在です。サンゴを保全することは、地球温暖化防止につながります。サンゴの保全を通して、地球温暖化の現状と対策を考えました。

国際サンゴ礁年2018 サンゴカフェ

テーマ「つながる、拡がる、支えあう」

日 時 2018年12月1日（土）14時～16時

場 所 国際サンゴ礁研究・モニタリングセンター(石垣市)

タイトル LET'S TRY☆ サンゴにやさしくらし方

内 容 サンゴや地球にやさしくらし方ってなんだろう？
楽しみながら、地球にやさしくらし方考えよう！

プログラム

- ・アイスブレイク^(注1)：人々がコミュニケーションを行う上で、聞き手側の姿勢が大切であることを、受講者に体感してもらう
- ・講 義：沖縄のサンゴが危機的状況であること、その背景にある地球温暖化問題について
「我々の世代が地球温暖化問題に対応できる最後の世代（後の世代が対策に取り組むのでは手遅れという意味）」
- ・エコチャレンジカードゲーム（センターが開発）の実施
- ・グループワーク：「20年後に石垣島をどうしたいか」「実現をするためには何をするか」をテーマに受講者同士で意見交換

概 要

講義とワークショップによりサンゴの保全と地球温暖化対策を来場者に啓発しました。

講義では、サンゴが果たす役割、危機的な現状について説明しました。ワークショップでは、アイスブレイクにて、ノンバーバルコミュニケーション^(注2)の大切さを伝えた上で、「20年後に石垣島をどうしたいか?」、「実現をするためには何をするか」をテーマに受講者同士で意見交換を行いました。



▲ワークショップの様子



▲サンゴ礁の危機を説明する吉田推進員



▲9月上旬竹富南にて撮影した白化したサンゴ



▲アイスブレイクの様子

注 1) 直訳「氷を壊す」。参加者の緊張をほぐしコミュニケーション促進のために行うグループワーク

2) 言葉以外の手段を用いたコミュニケーションのこと、非言語コミュニケーション

目 的

家庭から出る生ごみは水分を多く含んでいます。そのまま燃やすと、焼却に多くのエネルギーを使います。そこで、生ごみを絞って水分をのぞくと、焼却に必要なエネルギーの節約につながります。子どもたちに生ごみを絞る体験を通じて、家庭でできる温暖化対策の普及を進めています。

プログラム

導 入 自己紹介

展開 1. 家庭から出る「生ごみ」について話し合う

展開 2. 那覇市において「生ごみ」の削減が大きな課題であることを理解する

展開 3. 「生ごみを減らす方法」について話し合う

展開 4. 「生ごみをギュッと絞って」減らす作戦を考え、実験をしよう

展開 5. 実験結果と感想を発表する

展開 6. ○○休みに「生ごみ」を減らす作戦にチャレンジしよう

展開 7. まとめ・激励のあいさつ

概 要

講座では、子どもたちに生ごみを実際に手で絞ってもらう体験を通じて、生ごみを絞るというちょっとした心がけで、地球温暖化対策につながることを伝えています。更に、生ごみの削減の方法を子どもたちがグループで話し合う場を設けています。

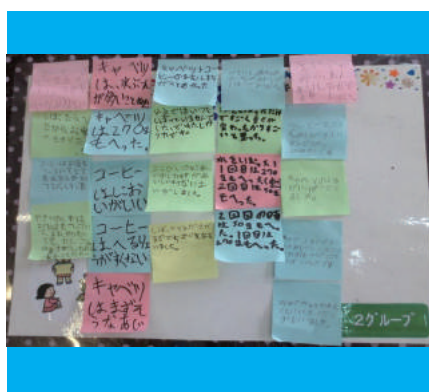
平成23年度から平成30年度にかけて8年間で、1,246名の子どもたちに伝えた実績があります。



▲集められた生ごみ



▲大浅田推進員



▲出前講座の様子①



▲出前講座の様子②

(2) 研修会等講師としての活動

推進員 玉栄章宏 氏

電力自由化によるエネルギーの地産地消

目 的

わが国では、2016年4月より電力小売り全面自由化が開始されました。しかし、沖縄県では、まだまだ電力自由化は進展していません。電力自由化は、安い電力の供給により生活を豊かにすることにつながります。

更に、再生可能エネルギーの普及に貢献し、地球温暖化対策に寄与することが期待されています。電力自由化が環境と経済に与える影響について市民目線で伝える活動を行っています。

講師等の実績

沖縄県地球温暖化防止活動推進員研修

日 時 2018年8月31日（土）19時00分～20時00分

場 所 沖縄産業支援センター 小会議室

タイトル 全国と沖縄の電力自由化の状況から
エネルギーの地産地消を考える

電力自由化とエネルギー地産地消シンポジウム

日 時 2018年2月9日（金）13時30分～16時30分

場 所 沖縄産業支援センター 中ホール

タイトル 沖縄での電力自由化とエネルギーの地産地消

沖縄国際大学沖縄経済環境研究所研究会

日 時 2018年1月18日（木）16時20分～17時50分

場 所 沖縄国際大学 13号館1階研究所会議室

タイトル 沖縄における電力自由化の現況と
エネルギーシフトへの期待

概 要

講演では、全国と比較し沖縄では電力自由化による新電力へと乗り換える件数が著しく少ないこと、理由として、電力網が唯一他県と接続されていないことから、日本卸売電力市場（JPEX）からの電力購入ができず、新電力会社にとって運営が困難であることを伝えました。

しかし、今年から、一部の事業者が家庭の太陽光発電の余剰電力等をもとに、一般家庭向けの販売を開始するなど、状況が変わりつつあります。バイオマス発電を行う事業者も現れており、今後、沖縄で地域ごとに再生可能エネルギーを利用した分散型発電所が増えることでしょう。そうすると、化石燃料の輸入量が減ります。地域内で循環する資金が増えることで、地球温暖化対策に加えて大きな経済効果が見込まれます。

その他、年に数回の頻度で県内新聞2紙の「論壇」に投稿し、環境問題やエネルギーへの課題、社会への提言を行っています。



▲玉栄推進員



▲講義の様子①



▲講義の様子②



▲講義の様子③

(3) 地域での活動

推進員 諸見みどり 氏

第6回七夕企画～であい橋で会いましょう～環境を考えるイベント

目 的

イベントに参加することによって、参加者自身が現在のライフスタイルを見直し、自身の健康を維持する生活と地球温暖化対策、そして、暮らしを楽しむ工夫を考え、実施する機会とします。また、共に環境を考える仲間との出会いの場を作り出します。

日時場所

日 時 2018年7月7日（土）13時～15時

場 所 那覇市牧志駅前ほしぞら公民館 ホール&ロビー

対 象 商業スペースや公民館、プラネタリウム、図書館への来場者

参 加 者 100人

実施内容

- ・環境紙芝居しずくんの冒険をスクリーンを使って読み聞かせ
- ・生活の中でエネルギー使用量を削減する生活を、改めて見直せる場となる環境関係資料の展示と配布（ロビーでパネル展の実施）
- ・健康を維持する食材の選び方や食事のバランスを考えて作るなど、遊びながら考えられるようフェルトで作った沖縄の食材キットを、赤、黄、緑のフェルトのお弁当箱に詰めて学ぶブース（地産地消につなげる取組）
- ・地域の子どもたちがリユースブースの店長体験（物を大事にする取組の実践）
- ・古着のリフォームファッションショーの開催（ごみを減らす工夫の紹介）
- ・その他、子ども、大人用の環境クイズや折り紙の7つの星☆を用意し、全ブースを回り楽しめる内容

概 要

6回目の開催となった環境を考えるイベントに、紙芝居の読み聞かせとファッションショーを取り入れたことで、実施側の参加者が増え、さらに、その家族も参加するなどして多くの来場者でにぎわいました。モデルには、製作者の家族や子ども店長の保護者を抜擢し、参加することが楽しみになる工夫を加えました。

また、ロビーには、那覇市環境政策課と地球温暖化防止活動推進センターのパネルを展示しました。推進員のブースでは、長崎研修の成果を掲示することができました。

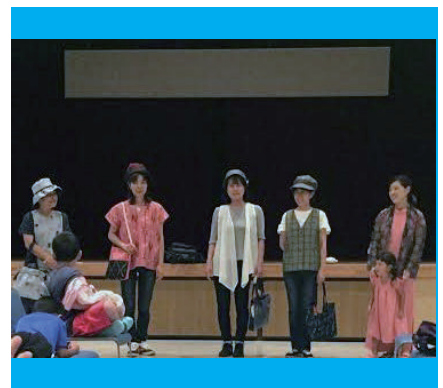
地球温暖化防止がテーマの環境を考えるイベントを実施することで、那覇市牧志駅前ほしぞら公民館近隣の児童クラブの子どもたちや、保護者、行政、事業者、NPO等大勢の方々の参加があり地域内外の繋がりの場となりました。



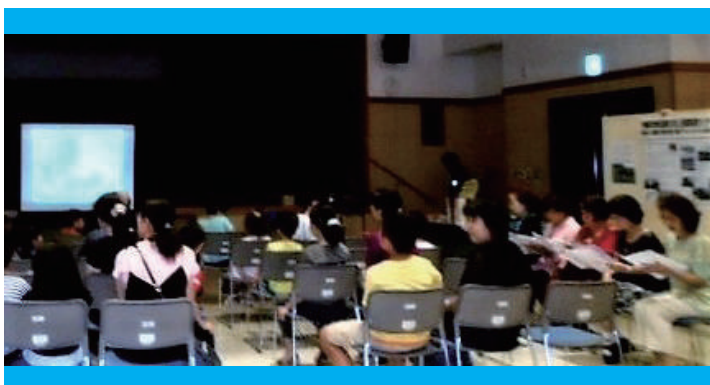
▲諸見推進員（右）



▲子ども店長リユースブース



▲古着リフォームファッションショー



▲スクリーンを使った絵本の読み聞かせ



▲会場の様子

目 的

地域住民へ地球温暖化に関する知識、情報を提供します。

エコトイ（注1）（エコマーク認証）遊びを通じて、親子にエコマークやクールチョイス（注2）を知ってもらいます。また、パネル展を同時開催し、IPCC第5次評価報告書（注3）の要点を一般県民に広く周知します。

日時場所

日 時 2017年2月18日（土）～3月13日（月）
（「エコマークを知ろう!」は2月18日（土）のみ）

場 所 イオンタウン南城大里店（専門店街通路）

展示内容

「エコマークを知ろう!」

電池を使わず、ゼンマイ動力で遊ぶおもちゃ（タカラトミー（株）プラレール&トミカテクノロジーシリーズと太陽光首振り人形）の体験、エコマークの紹介、環境保全パンフレットの配布
「地球温暖化防止パネル展」

IPCC第5次評価報告書のパネル12枚の展示

概 要

環境省が主催する低炭素杯（注4）の会場にて、スポンサーの一つであるタカラトミー（株）社員との会話からひらめいた企画です。

職場近郊のイオンタウン南城大里店に企画書を持ち込んで実現しました。店舗側の協力により、パネル、机、椅子の借用も含めて全て無料でした。買い物客の親子を想定し、狙いどおり、子どもがエコトイに興味を示し遊び始めたところに、親子にエコマーク、クールチョイスについて説明し、パンフレットを差し上げました。

太陽光首振り人形は室内ライトでは作動しませんが、同店の通路には太陽光増幅採光窓が使われているので問題なく動きました。店舗のエコな取り組みも併せて紹介することができ、店舗側のメリットになる工夫もしました。

17組の親子がおとずれ、温暖化については「TVでやっているのを知っている」、「異常気象による災害が気になっている」、「学校でも、省エネ／節電に取り組むよう教えられている」など、温暖化やその対策についての感想を聞くことが出来ました。

一方で、「エコトイ（認証マーク）を知らなかった」、「商品を買う時に、エコマークは全く意識しない」等、普及啓発の継続した取り組みの必要性も感じました。

パネル展では、準備した50冊のパンフレットを来場者へ配布しました。このイベントをきっかけに各家庭でもすぐに取り組めることを無理なく実行してほしいと願っています。



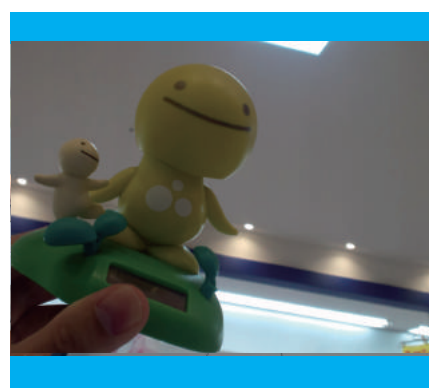
▲会場全景



▲エコトイ体験コーナー



▲エコトイを体験する子どもたち



▲店内で作動する太陽光首振り人形

注 1) おもちゃを作るときや遊ぶときなどのことを考え、エコの工夫をしているおもちゃ
2) 2030年度に温室効果ガス排出量を2013年度比で26%削減するという目標達成のため、低炭素型製品への買換え・サービスの利用・ライフスタイルの選択など、地球温暖化対策に資するあらゆる「賢い選択」をしようという取組
3) 国連下部組織の気候変動に関する政府間パネルによって発行される地球温暖化に関する5番目の報告書
4) 全国の市民団体・企業・学校・自治体などが取り組む、温暖化防止活動を発表することにより、取組のノウハウや情報を互いに共有し、更なる活動に向けて連携や意欲を創出する「場」として、平成22年度から環境省が主催し毎年開催されているコンテスト

(4) 環境教育活動

推進員 春川淳 氏
推進員 春川京子 氏

海岸清掃と環境教育

目 的

地球温暖化対策のために、これまでの大量生産、大量消費という生活スタイルを改める必要があります。海岸清掃を通して、子どもたちに「普段の生活でむだづかいをしない、むだに物を買わないことの大切さ」を伝えていきます。

2018年度の主な活動実績

- 2018年12月16日 真謝海岸 海岸清掃 参加者45名、100袋相当ごみ回収
- 2018年12月12日 環境出前授業 小学6年生 漂着ごみ調査
- 2018年11月24日・25日 自然体験指導者養成講習会
- 2018年11月23日 ヤドカリの行動学 講話
- 2018年11月22日 環境出前授業 小学5年生 漂着ごみ調査
- 2018年11月16日 池間島カギンミビーチ 海岸清掃 参加者20名、24袋相当ごみ回収
- 2018年11月11日 サバウツガー 海岸清掃 参加者14名、53袋相当ごみ回収
- 2018年11月 3日 海辺の環境教育プログラム
「未来につなぐプロジェクト 写真教室・マングローブ観察会」
- 2018年10月28日 狩俣東海岸 海岸清掃 参加者11名、70袋相当ごみ回収
- 2018年 7月11日 環境出前授業 中学1年生119名 漂着ごみ問題
- 2018年 6月10日 狩俣東海岸 海岸清掃 参加者33名、126袋相当ごみ回収
- 2018年 6月10日 海辺の生きもの観察会
「ワールドオーシャンズデイ」イベント
- 2018年 5月31日 環境出前授業 小学5年生 漂着ごみ調査
- 2018年 5月21日 環境出前授業 マングローブ生態
- 2018年 5月20日 高野海岸 海岸清掃 参加者39名、38袋相当ごみ回収
- 2018年 4月25日 修学旅行環境教育 80名 マングローブ観察プログラム
- 2018年 4月15日 池間島 海岸清掃 参加者20名、49袋相当ごみ回収
- 2018年 3月11日 サンゴ礁ウィーク 親子向けマングローブ観察会
- 2018年 2月17日 狩俣東海岸 海岸清掃 参加者22名、116袋相当ごみ回収
- 2018年 1月21日 狩俣東海岸 海岸清掃 参加者23名、245袋相当ごみ回収

概 要

宮古島の海を拠点に特定非営利活動法人 宮古島 海の世界ネットワークの理事や事務局として、宮古島の自然環境を守ろうと熱力的に環境問題に取り組んでいます。

地域の学校での環境教育では、地元の小学生向けに、海のごみの話やごみの影響を学ぶ体験をしてもらい、環境問題に触れ、ごみの削減や、省エネについて自分たちが出来ることを考えてもらっています。

プログラムを体験後、子どもたちから、よく「普段の生活で、むだづかいをしない、むだなものを買わない」という意見が出ます。このような気づきが、ごみ減量となり、地球温暖化防止につながっていきます。

2018年3月4日に開催した「未来に残そう宮古ブルー」ーサンゴ礁ウィークイベント「海LOVE in 宮古島2018」に、春川京子推進員が実行委員長、春川淳推進員が海岸清掃班長を務めました。

海岸清掃に市民360人が参加し漂着ごみを集め、その量は計906袋にのぼりました。

一人ひとりがごみを減らそうと心掛けることが大切なことであり、そういう思いで活動が続けていけば、ごみのない本来の砂浜を取り戻すことができます。ごみ減量化運動の一層の広がりに期待を込めて継続して海岸清掃を行っています。



▲春川淳推進員（左）、春川京子推進員（右）



▲1月21日 狩俣東海岸 海岸清掃



▲10月28日 狩俣東海岸 海岸清掃



▲11月24日-25日 自然体験指導者養成講習会

写真：特定非営利活動法人 宮古島 海の世界ネットワーク

(5) 省エネの推進

推進員 大城加代子 氏 家庭の省エネ診断

目 的

家庭の省エネを推進する取組として、「うちエコ診断」と「家庭の省エネ簡易診断」を実施しております。

「うちエコ診断」、「家庭の省エネ簡易診断」は、受診されるご家庭の灯油やガソリンなどの年間エネルギー使用量や光熱費などの情報をもとに、各家庭の光熱費やCO₂排出量を「見える化」し、各家庭のライフスタイルに合わせて無理なくできる省CO₂・省エネ対策を提案します。

現在、環境省認定の公的資格「うちエコ診断士」の資格を取得し環境省の「うちエコ診断ソフト」を使って診断を行っています。

診断実績

- ・6月の環境月間と12月の地球温暖化防止月間、県庁1階ロビーにて
- ・名護市環境フェア、名護市民会館前庭広場にて
- ・12月の浦添市地球温暖化防止展、浦添市役所1階ロビーにて
- ・那覇市のみんなでクールチョイス！環境作品展2017年12月17日(日)、那覇市民体育館にて
- ・花王環境イベント、株式会社サンエー（具志川メインシティ、ハンビータウン、経塚シティ、西原シティ）1階オープンスペースにて

診断の流れ

1. 概要説明や診断の流れ、所要時間の説明
2. 事前調査表をもとに聞き取り
3. 平均との比較結果の提示 CO₂排出順位の確認等
4. おおよその節約金額なども参考に目標を設定
5. 内訳結果より個別の対策提案
6. 元が取れるかどうかの試算
7. 診断結果レポートの出力
8. 診断結果レポートをもとにふりかえり、質疑応答

概 要

これまでの診断結果から、県内の家庭では、車、給湯、冷蔵庫、冷房の順に多くのCO₂排出量を占める傾向があることがわかりました。家庭においてはこれらに関する取り組みが重要になってきます。もちろん、家庭でのCO₂削減対策の提案は、その傾向を知ることも大事ですが、一番重要なことは受診者に寄り添い、コミュニケーションを図りながら、一緒に実施可能な対策を考える姿勢です。

受診者の皆さんからは、わが家のCO₂排出量が“見える化”されることでの気づきから省エネ対策へ意欲の高まったという感想や、最適な省エネ対策を提案してもらえたことへの感謝の声を頂いています。また、エコカーを購入するかどうか迷っていた受診者からは、元が取れるかどうかの試算が判断材料になったということで大変喜ばれました。



▲受診された那覇市長（左）と大城推進員（右）



▲家庭の省エネ診断の様子



▲大型商業施設の診断会場



▲沖縄県庁1階ロビーでの診断会場



(6) リサイクル活動

推進員 金城順子 氏

ダンボールコンポストによる生ごみの堆肥化

目 的

生ごみの堆肥化は、焼却場で燃やされるごみを削減し、地球温暖化対策に繋がります。家庭でできる生ごみの削減方法として、段ボールコンポストによる生ごみの堆肥化を進めています。

開催実績

- ・ダンボールコンポストの出展
「第4回とみぐすく産業フェスタ」（豊見城市豊崎道の駅）にて
テーマ：「小さな循環生活始めませんか」
出展内容：ダンボールコンポストの作り方をパネル展示し説明
- ・平成29年度ダンボールコンポスト講習会（第1回）
日 時：2018年1月28日（日）10時00分～12時00分
場 所：豊見城市役所5階 参加人数：31名

概 要

私たちが毎日出す生ごみは栄養価も高く、バランスの良い堆肥に生まれ変わることができます。誰でも簡単に出来るダンボール箱を使っての生ごみ堆肥化は失敗の少ないやり方であり、多くの人に実践してもらいたいです。

平成19年度より、『ダンボールコンポスト』の普及活動を推進し、個人相手の小規模な取り組みから行政との連携まで幅広く活動しています。また、活動の強化として他の市民団体との連携や地域サポーター（指導員）の育成にも力を入れています。

今回は出来た堆肥を使って植物を植える体験コーナーも開催し、植木鉢の代わりにペットボトルリユース品を使用したところ、「ペットボトルの変わったプランターを見たい」、「牛乳パックでもプランターを作ってほしい」などの要望がありました。

次回は、出来たコンポスト堆肥を配って、植物の生育の違いなどの聞き取りを行っていきたいです。アフターフォローを定期的に何度も実施することで、継続につながり、持続可能な循環生活を実現できると捉えています。



▲金城順子推進員



▲ダンボールコンポストの実演



▲講習会の様子①



▲講習会の様子②



▲出展ブースの外観

(7) その他の活動

推進員 伊波克典 氏

エコロジカル・フットプリント普及活動

エコロジカル・フットプリントとは、人間が生活していく上で環境に与える負荷を、その活動に必要な土地面積により表した指標のことです。現在、人類は地球2個分の暮らしをしています。地球に人類が住み続けるためには地球1個で暮らせるようにしなければなりません。エコロジカル・フットプリントに関わる研究発表や意見交換の場で、沖縄の地球温暖化対策について情報発信をしています。

推進員 比嘉正徳 氏

樹木の育成支援活動と環境教育

兼箇段御願林蘇生会（うるま市）の活動を通して、樹木の成長阻害要因である、つる性植物の撤去を実践しながら、樹木育成支援活動の周知とすそ野の拡大に努めています。

また、生協環境委員会活動の環境教育として、親子向けに樹木が二酸化炭素を吸収する仕組みについて、CO₂や地球温暖化といった学校やTV等で見聞きしているキーワードを織り交ぜながら講話しました。

推進員 瀬長 修 氏

家庭の省エネ簡易診断

「沖縄県地球温暖化防止月間パネル展」の開催に合わせ、県庁ロビーにて声を掛け、省エネ診断と省エネ行動の提案を行いました。省エネ行動を行う際に日常生活のどこからのCO₂排出量が多いかを調べたうえで、その家庭に適した省エネ行動を提案することができます。

推進員 金城まゆみ 氏

ビーチクリーン活動

うるま市の海中道路での海岸清掃活動を、年間2回自主開催しました。釣りの餌が入ったビニールや飲食の容器、その他プラスチックや漂着ごみも多くありました。2018年3月18日の実施の際には、13名参加、20袋、総重量90Kgのごみを回収しました。

推進員 古謝久子 氏

新聞紙エコバッグによるリユースの啓発

地域のボランティアと一緒に新聞紙でエコバッグを作成しており、多いときで年間2,500枚にのぼりました。作成したエコバッグは、センターや学校のイベント、その他の集まりで配布しました。無償提供することで資源のリユース（再利用）の啓発に一役買っています。

推進員 守谷光弘 氏

沖縄での循環型社会の形成

NPO法人ハマスーキを通じて小学校などでの循環型社会についての授業の講師をしたり、解体される古民家からの廃材（柱等）を活用し、サバニのオールづくりをしています。

また、環境に配慮したコミュニティアパート（注1）とカフェの建築にむけて現在準備をしています。

推進員 和田重則 氏

会社で行う推進員活動

会社内で推進員としての立場を説明し、お昼時間の消灯と、エアコンとサーキュレーター（注2）の併用導入を実現しました。サーキュレーターの導入により、快適さを保ったままエアコン設定温度を上げることができ、電気代の節約（CO₂排出量削減）につながっています。

推進員 名嘉光男 氏

エコアクション2.1（注3）の普及活動

那覇市内の中小企業者を対象に、月1回の勉強会を行い、エコアクション2.1認証取得までの必要な知識の習得、環境への負荷と環境への取組の自己チェック、実施体制の整備等を行いました。

温暖化対策は、社会全体で進める必要があります。そのため、様々な立場の方が推進員として委嘱されています。100人の推進員がいれば100通りの活動があります。地球温暖化対策につながる活動は、すべて推進員の活動です。あなたの特技、立場を活かした推進員活動を進めてみましょう！

注 1) 地域共同体を意味し、住民の間のつながりや相互の協力関係などをいいます。

ここでは、環境という共通意識を持った住民が共同スペースをつかってワークショップを開催するなどして普及啓発を図ります。

2) 直線的で遠くまで届く風を起こし、空気を循環させるための機器です。

3) 環境省が策定した日本独自の環境マネジメントシステムです。「PDCAサイクル」と呼ばれるパフォーマンスを継続的に改善する手法を基礎として、組織や事業者等が環境への取り組みを自主的に行うための方法を定めています。

4 過去の活動事例

元推進員 谷田貝哲 氏 バスの定時性調査

目 的

平成30年『沖縄県地球温暖化対策実行計画進捗管理報告書』によりますと、県内の温室効果ガス総排出量は、2011（平成23）年度以降減少傾向にある一方で、運輸部門は増加傾向にあります。その要因として、自動車の燃料消費量が増加傾向にあることを挙げています。県民が公共交通機関を使い、脱クルマを実践すればCO₂削減につながります。

しかしながら、「沖縄のバスは時間通りに来ない」という思い込みから公共交通の利用が進みません。果たして、その思い込みは正しいのか、バスの定時性調査を実施しました。

概 要

「バスは時間通りこない」とよく言われる沖縄。しかし、それは本当なのでしょうか。

センターでは、実際にバス停を通過するバスの発着時刻を調べてみました。調査したのは、那覇市の中心部にある「開南」バス停、モノレール儀保駅近くの「平良」バス停、沖縄市の中心部にある「中の町」バス停です。その結果、次のことがわかりました。

- 開南を通るバスは、平均4分20秒の遅れ。
- 平良を通るバスは、平均6分44秒の遅れ。
- 中の町を通るバスは、平均7分6秒の遅れ。

これを見る限り、確かに遅れが生じてはいます。しかし、よく見るとその中でも運行便数が多い路線ほど、遅れが少ない傾向があるようです。日によって交通量も異なるラッシュ時間帯の数字ですし、普段からバスをよく使っている人であれば、ある程度の遅れを見込み、余裕を持ってバスを利用しているでしょう。そう考えると、一般的に言われるほどには、そしてバスが不便と言うほどまでには、遅れていない、とも言えそうです。

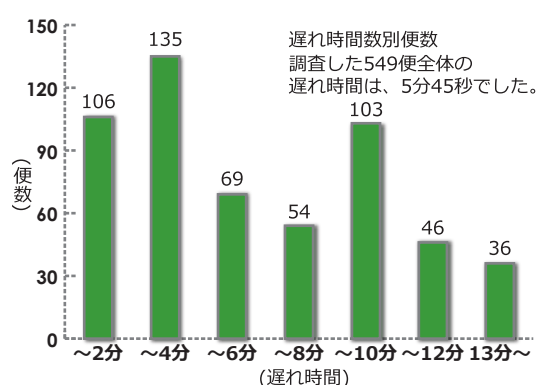
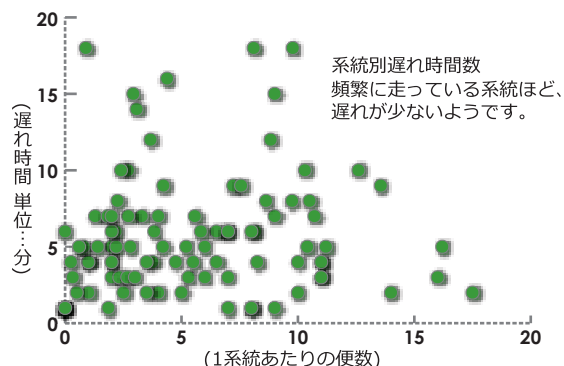
鉄道と違い、バスは他の車両と同じ空間を走ります。（※今回の調査地点のうち、開南付近にはバスレーンがあります。開南の遅れが他のバス停より少ないのは、バスレーンのおかげかもしれません。）バスの定時性が乱れがちだとしたら、その最大の原因は、たくさんのクルマが狭い島にひしめく、この沖縄のクルマ依存社会なのかもしれません。

みんながバスをはじめモノレール、自転車、タクシー、徒歩など、クルマ以外のさまざまな交通手段を賢く使い分けて移動することが、脱クルマ社会へ向けた地道な、しかし大きな一歩になるはずです。

【調査概要】

調査日は2014年10月30日(木)(開南)、11月6日(木)(平良、中の町)です。朝7時～10時に通るバスの通過時刻を調べました。調査員が見逃したりした便は集計からはずしています。

なお、当事例は、センターと複数の推進員の方々が、アイデアを出した谷田貝推進員(当時)とともにに行った事例です。



5 沖縄県地球温暖化防止活動推進センターの顔

センター職員の紹介

大城 博

センター長

私が沖縄県の環境保全室に勤務していた平成9年に、地球温暖化防止京都会議が開催され、二酸化炭素等の削減目標が定められました。

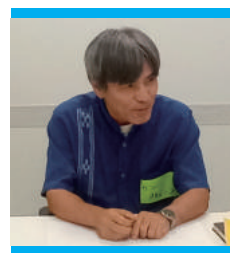
退職したあと、(一財)沖縄県公衆衛生協会に就職しました。平成15年度初頭に県と調整し、11月に沖縄県地球温暖化防止活動推進センターの指定を受けました。現在、職員一同、環境保全活動に努めているところです。



高平 兼司

事務局長

(一財)沖縄県公衆衛生協会に就職して38年となります。現在、センター事務局長として、温室効果ガスの発生低減のための普及啓発に邁進しておりますが、活動はいまだ不十分と認識しており、今後一層の努力が必要です。また、個人的には、河川愛護活動や環境教育、防災活動にも興味を持ち、微力ながら地域とともに進めています。



若林 真也

課長

センターが県から指定を受けた2003年より勤務をしています。この間、色々なことがありましたが「何があっても立ち続ける」(実は元ボクサーです)という信条のもと継続をしてきました。社会を変えるには、様々な工夫をすることは勿論ですが、続けることが最も大切と考えています。センターと推進員は、地球温暖化対策のため人々の意識を変える役割を担っています。一緒に頑張りましょう。



当真 嗣也

主任

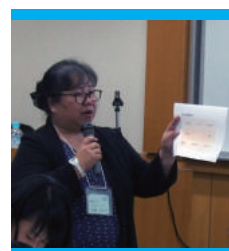
本籍は、那覇市首里崎山町の南風原町民です。趣味でバドミントンサークルに週一回通っています。自身も推進員として出来る範囲でパネル展を開催したり、他の推進員の活動に参加させてもらったりしています。業務では、主に おきなわアジェンダ2 1 県民会議事務局を担当しており、県民会議では推進員も応募できる支援金制度がありますので、まずはご相談ください。



大城 加代子

主事

SDGs (17の持続可能な開発目標) が達成された社会を目指し、私に出来ることを日々模索しております。5年前に県外からUターンしてきました。推進員として活動しておりますが、平成30年4月より、(一財)沖縄県公衆衛生協会、地球温暖化対策課に勤務しております。推進員の気持ちに寄り添い、活動をサポートできればと思います。お気軽にお声掛けいただければ幸いです。よろしくお願いします。



おわりに

平成30年12月1日に、気候変動への適応を推進することを目的として、気候変動適応法が施行されました。地球温暖化の影響が実際に現れ始めている昨今、推進員の皆様に期待される役割は、今後ますます大きくなります。持続可能な未来の沖縄を子どもたちへ引き継いでいけるように、センター職員も皆様とともに頑張ってまいります。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

沖縄県地球温暖化防止活動推進センター



発行 : 平成 31年 (2019年) 2 月

沖縄県環境部 環境再生課 TEL : 098-866-2064

FAX : 098-866-2497

E-mail : aa021100@pref.okinawa.lg.jp

この冊子は平成30年度沖縄県環境保全基金事業として作成しました。



古紙/パルプ配合率100%再生紙を使用



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

この印刷物は、グリーン購入法に基づく基本方針における「印刷」に係る判断の基準にしたがい、印刷用の紙へのリサイクルに適した材料(A ランク)のみを用いて作製しています。